『ＶＵＣＡ時代を先導する IoT 推進委員会を目指して』

2018 年 10 月 18 日

IAjapan IoT 推進委員長
藤原洋

最近「ＶＵＣＡの時代」という言葉が重要だと考えています。

VUCA（ブーカ）とは Volatility（変動性・不安定さ）、Uncertainty（不確実性・不確定さ）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性・不明確さ）という 4 つのキーワードの頭文字から取った言葉で、現代の経営環境や個人のキャリアを取り巻く状況を表現するキーワードとして使われています。

VUCA時代とは、現代を本質的に捉えた言葉です。あまりにも変化が激しく、過去のやり方が通用しなくなる時代です。

こんな時代に起こっているイノベーションに、IoT、データサイエンス、AI が、ありますが、中でも、現代日本に強みが発揮できそうなのが、IoT です。

今世紀になって、世界を変えた企業として、ＧＡＦＡ（グーグル、アップル、フェースブック、アマゾン）が注目されていますが、日本からこうした企業が生まれるかという点では、私はやや悲観的に考えています。それは言語です。ＧＡＦＡは英語圏で生まれました。日本語圏の人口は 1 億 2000 万人で、最初からスケールが違います。同じ土俵で戦っても勝てないでしょう。中国は、14 億人の人口があるのでアリババやテンセントなど、人間を相手にするインターネット・サービスもそれなりに成功できます。しかし、日本の場合、違う土俵で戦うべきだと考えます。

ターゲットは、人間ではなくモノです。つまり、IoT の領域で勝負すべきなのです。モノには、言語障壁はありません。その成功のヒントは、自動車産業にあります。自動車は、ユーザーインターフェースが統一されています。ハンドルを回し、ギアチェンジし、アクセルやブレーキを踏む。こうしたインターフェースに言語は介在せず、世界共通です。ＧＡＦＡに対抗するサービスが日本から生まれることは期待しにくいですが、製造業のサービス化や IoT の国際標準化などで先行すれば、世界を変えられる技術を生み出す可能性はあると考えます。従ってこの IoT 推進委員会の活動は重要だと考えています。